

2016年8月24日の正午より20分くらい定刻より早く、飛行機の窓越しに懐かしい街並みが眼下に広がった数分後、滑走路に着地した時の軽い衝撃が体に伝わってきた。第3の故郷ともいべき大連に着いた。ちなみに第1の故郷は、生地の広島。第2は4年間単身赴任した新潟である。しかし大連は2007年から2年間しか生活しなかったけれども外国であるだけに格別の思いがある。大連については、これまでシリーズ「都市巡り」で2011年に何度か寄稿しているが、それから5年余り時が過ぎ去った中で、違った顔を見せる大連を今回の旅行を通して何回かに分けて紹介していきたい。10日間滞在した中で、長春や丹東にも旅したのでそれも書き加えたい。

大連のここ1～2年の変容で顕著なのが、地下鉄の開通である。しかも2路線が同時に開通した。工事期間は5～6年はあったと思うが、有名な円形の中山広場はその間周囲を3メートル位の青色の養生板で仕切られていた。それが綺麗に取り払われ以前の美しい光景に戻っていた。夜は見なかったがおそらく以前のように何色もの電飾で別世界を造りだしていよう。

昨年は地下鉄は、どちらの路線とも部分開通していたが、今年、予定路線はすべて開通したのだそう。大連空港には地下鉄2号線の駅が設置されたと聞いていたので、迎えに来てくれた友人に「地下鉄に乗りたい」と言って案内してもらった。

以前は空港建物から出てすぐのところタクシーに乗っていたが、タクシー乗り場のすぐ近くに地下鉄の入り口があり大変便利である。階段を降りて切符売り場に到着し料金を見るとたったの4元。10元札を入れるとスイカのカードのような



ホテルの部屋からの風景。眼下に大連駅が見える(↓)。

切符が出てきた。これは記念に1枚欲しかったが、目的地の駅で機械に回収されてしまった。今までは市内に行くにはタクシーで35元から40元かかっていたし、渋滞で遅くなるということもなくなったわけである。初乗り料金は私が大連にいたときは8元であったが、10元に値上げとなっていた。タクシーに乗ると客のことはそっちのけで大きな音で音楽をかける車ばかりでうるさいので「qīng yī diǎnr 軽一点儿」(少し音量を下げてください)と言ってもどこ吹く風だ。おつりと言えぱくしゃくしゃで触るのもはばかりられるようなお札を寄越すということ等が減るわけで地下鉄は本当にありがたい。ホームドアはすべての駅に設置され安全で、車両も駅もきれいでいいことづくめである。ただしホームに入る前に、どこの都市の地下鉄や電車と同様日本と違って手荷物検査がある。

さて、ホテルは大連駅や勝利広場に近い「大連中山大酒店」という四つ星ホテルである。以前にも何度か泊まったことがあり定宿といったホテルだ。地下鉄はここに比較的近い「qīng ní wā qiáo 青泥窪橋」(チンニーワーチャオ)駅で降りた。駅名の由来は以前にも書いたが、この地域の土地は昔から青泥を含ん



乗車券 — パスポートNo.と名前が印字されている

でいる土質からそのように呼ばれた。「大連」という地名がつけられるまでは「青泥窪」という場所であった。

フロントでパスポートとEチケットを見せると、200円の保証金(押金)を求められ、それを支払うと部屋の鍵(カード)を渡された。部屋は32階で早速エレベーターに乗る。エレベーターは低層階行きと高層階行きに分かれており、全部で6基くらいある。高層階行きに乗るとガラス張りになっていて綺麗な街並みがどんどん足元に消えてゆく。高所恐怖症の私は、なるべく遠くを眺める。32階に降りるとその階は日本人用の階と表示されていて(もちろん日本人以外でも宿泊可)、壁には浮世絵の版画がいくつか掲げてあった。部屋に入ると小さな日本人形がベッドのサイドテーブルの上に置かれていた。外を眺めると、1937年に上野駅にそっくりに建てられた大連駅が真正面に小さく見え、その向こうは大連港の一部が目に入ってくる。「海景房」(海の見える部屋)とでも言えようか。今日は快晴なのでその光景は絵葉書を見るようでうれしい限り。中国の友人が快晴の時よく言う「藍天白雲」とはこのような光景かな、と一人で納得する。

荷物を置いて1階ロビーの両替コーナーに行った。円高なので期待しながら5万円出すと、1万円に付き643元もらった。昨年9月に大連を訪れたときは、500元に届かなかったのでまずま

ずといったところか。2008年頃大連で仕事をしていたころは、700以上に換金できたので、その頃が懐かしい。

現金を手にしたので一緒に大連駅に行き、27日の長春行きの高鉄(中国版新幹線・大連北駅からハルビン駅間)の切符を買いに行った。私は、高鉄はどの電車も新しく完成した新幹線用の「大連北駅」から出発するものだと、したがって大連北駅で乗車券を買うのかと思っていた。ところが大連駅から出発する高鉄もあり、乗車券も大連駅で購入できるという。大連北駅には、タクシーで30分はかかるので大助かりである。大連駅の窓口で朝9時15分大連駅発の高鉄の乗車券を購入することができた。購入時にはパスポートが必ず必要である。

切符を見るとG8007電車で座席は4号車の3F席である。券面にはパスポート番号とTERANISHIと名前が入っている。後日27日に高鉄に乗車して分かったのであるが、車内に入ると通路を真ん中に、左右に座席は3人掛けと2人掛けに分かれている。座席は3人掛けの方からABCとなっている。2人掛けの方はDとFとなっていてE席はない。おそらくEは中国語では¹と発音が似ているためであろう、と思った。なお、地下鉄と異なり下車駅でこの切符はもらえるのでいい記念となった。

夕方は「捌七茶館」というお茶を扱っているお店に行き、お店の関係者と一緒に老板のお勧めの中華料理店で1年ぶりの再会を喜び合った。かくして24日は終わり、翌日の25日は、孫へのお土産や友人に頼まれた太極拳の本を求めて新華書店に行ったりして街の香りを感じながらゆっくり過ごした。次号は26日に大連市内から30キロあまり離れたところにある、歴史の町「金州」についてお話ししたい。

(続く)